

JA愛知東は、
地域の農業とくらしになくてはならない
組織となることを目指しています。

JA愛知東

『自己改革』 の取り組み

平成28年度≫平成30年度

＼「JA自己改革」取り組み中／



これまでの取り組みの成果をご紹介します

JA愛知東「自己改革」の取り組み

JAグループでは、組合員の願いである

「**農業者の所得増大**」「**農業生産の拡大**」「**地域の活性化**」を
実現させるため、多様化する環境の変化をふまえて

JAごとに地域の特性を活かした

JAの『**自己改革**』に取り組んでいます。

政府主導による「農協改革」の集中推進期間の節目を今年(令和元年)5月に迎え、
今後も「地域の農業とくらしになくてはならない存在」として

JA本来の役割を発揮していくためには、政府の方針に左右されるのではなく、
利用者であり運営者でもある組合員から「**JAがあってよかった**」の声を
自己改革の評価として政府へと届けることが必要となります。

今回、第8次中期3か年計画(平成28年度～平成30年度)に基づき、
皆様と共に取り組んできたJA愛知東の取り組み状況について紹介いたします。

自己改革の取り組みは、
組合員の皆様に評価をいただいて
初めて成果となります。



「農協改革」と「自己改革」の比較

JAは農業＋地域

持続可能な農業の実現

協同組合としての役割発揮

豊かでくらしやすい地域社会の実現

JAが自ら取り組む自己改革

農業を基本に地域に貢献する協同組合を目指す

JAグループ自己改革

- 農業者の所得増大
- 農業生産の拡大
- 地域の活性化

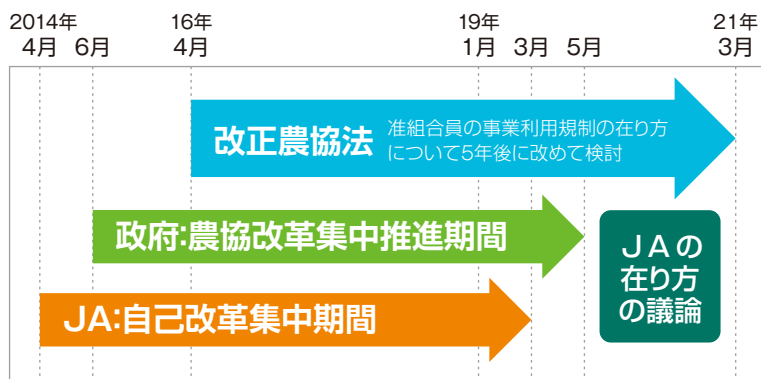
「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」の確立

国は農業に特化

国が主導で進める農協改革

農業に特化した職能組合を志向

自己改革・農協改革をめぐるスケジュール



政府は農協改革の名のもとに、JA組織・事業の見直しを掲げ、「JAの総合事業の解体」などを検討しています。組合員のくらしや地域を元気にする取り組みもJAの役割です。JAの未来を、組合員の皆さんで考えていきましょう。



「農業者の所得増大」 「農業生産の拡大」の取り組み



販売力の強化 (オンリーワン販売戦略の実践)

市場や消費者が求めるニッチ(隙間)需要を掴み、大きな産地とは異なる中山間地ならではの強み(品質・出荷時期・独自ブランドなど)を活かした販売戦略を生産品目ごとに確立し、大産地の量的規模に負けない差別販売を実践しています。

農産物販売取扱高

45億円、46億円、44億円
(平成28年度) (平成29年度) (平成30年度)

品目／取り組み事項	成 果
トマト ● 契約販売の拡大 ● 養液栽培技術の普及 	● 売立金額 4億6千3百万円 (平成27年度) → 5億2千3百万円 (平成30年度) 13%増 ● 最高反収 18.0t (平成27年度) → 22.4t (平成30年度) 24%増
イチゴ ● 適正着果による大玉生産(摘果) 	● 売立金額 2億7千6百万円 (平成27年度) → 3億3千5百万円 (平成30年度) 21%増 ● 販売数量 203t (平成27年度) → 232t (平成30年度) 14%増
ハウレンソウ ● 周年での安定生産 ● 産地規模拡大 	● 売立金額 2千5百万円 (平成27年度) → 4千2百万円 (平成30年度) 68%増 ● 販売数量 45t (平成27年度) → 72t (平成30年度) 60%増
ミニトマト ● 裂果の少ない品種に転換 	● 売立金額 1億2千4百万円 (平成27年度) → 1億6千3百万円 (平成30年度) 31%増 ● 平均反収 6.7t (平成27年度) → 7.2t (平成30年度) 7%増
菌床しいたけ ● 菌床センター培養棟増築 	● 売立金額 9千9百万円 (平成27年度) → 8千2百万円 (平成30年度) 13%増 ● 総菌床数 14万6千菌床 (平成27年度) → 16万5千菌床 (平成30年度) 13%増
お 米 ● 実需者直接販売の強化 ● 銀座「山田屋」での販売開始(作手産ミネアサヒ) 	● 販売累計 33,169俵 (うち酒米契約7,979俵) (平成28年度～平成30年度)
畜 産 ● 鳳来牛のブランド化 ● 和牛受精卵移植などの新技術導入 	● 売立金額 7億2千百万円 (平成27年度) → 9億1千4百万円 (平成30年度) 27%増 ● 支援総額 1億3千6百万円 (平成28年度～平成30年度／JA全中「畜産経営継承支援事業」) ● 事業継承 4件
● ブロイラーの飼育羽数増加 	● 売立金額 4億7千7百万円 (平成27年度) → 5億7百万円 (平成30年度) 6%増



稲作用肥料の予約取りまとめによるコスト削減

稲作用肥料の主要銘柄10品目を予約注文として取りまとめの強化を図り、通常価格より10%削減で提供しました（翌月決済に限る）。

事例

- ・稲作用肥料……8品目
- ・稲作用追肥……1品目
- ・けい酸加里肥料…1品目

**10%
削減**



入札制度による仕入れ改善

マルチフィルムや防曇袋のほか、茎葉除草剤を加えた各種園芸資材について入札制度を導入しており、仕入れ価格の低減を実現しています。

※価格は平成30年度

事例

品 目	当用価格	入札後価格	価格差
黒マルチフィルム 幅180cm×200m巻	2,743円	→ 2,385円	358円 削減



銘柄集約により園芸肥料の低価格化を実現

汎用性の高い園芸肥料を農家の皆さんに提案することで銘柄集約を行い、資材メーカーへの大量発注により、コスト低減肥料の取り扱いにつなげています。

事例

園芸用肥料

- ・BBわかばの友484
- ・高度園芸13号・野菜エース



BB462
(14-6-2)

20kgあたり約670～860円削減 ※価格は平成30年度



共同利用施設の整備

総事業費

2億3千万円(12事例)

- ・ライスセンター …… 玄米色彩選別機の導入（全地区）によるカメムシ被害粒混入防止
- ・トマト …………… 選果ラインの増強により選果能力が2倍に向上
- ・菌床しいたけ …… 菌床ブロック培養棟、パッケージセンターの増築による生産拡大



新規就農者の育成

就農林相談会や現地説明会を開催し、先輩農家の経営モデルを紹介することで就農までの歩みを見える化し、農家研修や設備投資に伴う資金援助、住居斡旋など、農業経営や移住へのサポートを行っています。

新規就農

12人(平成28年度)、**7人**(平成29年度)、**7人**(平成30年度)

- ・トマト……12人
- ・菌床しいたけ…3人
- ・イチゴ…1人
- ・ナス……1人
- ・露地野菜…3人
- ・水稻…………2人
- ・鉢花 ……1人
- ・畜産……3人



営農支援のための労働力確保

農業専門の無料職業紹介所を開設し、高齢化に伴う労力減少、農繁期の人手不足の解消につなげています。また、出荷調整作業など技能訓練を行ったシルバー世代の農家派遣（援農）にも取り組んでいます。

事例

無料職業紹介所

しんしろ援農隊

求人**13人**／求職**28人** 農家への派遣**8人**



鳥獣害対策

深刻化している管内農地に対する鳥獣害被害を軽減させるため、鳥獣被害防止総合対策交付金を活用し、侵入防止柵を設置しています。

事例

- ・設置地区 …………… 累計203地区
- ・侵入防止柵設置総キロ数 …………… 累計 439km

3年間で(平成28年度～平成30年度)

31地区、45km(農地面積約171ha)設置



組合員との対話による 営農情報の共有

生産品目別の部会組織では、農家経営に役立つ技術、資材、市況などの情報を共有することで産地としての生産力向上につなげています。また、新規就農者と先輩農家との交流会なども開いています。

事例

- 支店運営委員会 → 各地区の代表者による意見集約
- 購買取引委員会 → 原料情勢などを把握し、資材の適正価格の設定につなげる
- 営農共同利用施設運営委員会 → 生産部会、利用者等の意見を交えた運営管理
- 農家集会 → 営農情報の提供及び、意見集約



農業・JAに関する 積極的な情報発信

広報誌「ジャンボ」、新聞チラシ「ファイン」、ホームページを通じて多様なJA事業や旬の農畜産物を紹介。また、マスコミへ積極的な情報発信を行い、新聞、テレビ等の報道でも広くPRしています。

プレスリリース

- マスコミへの情報発信(平成28年度～平成30年度)

計**57件**／うち取材件数**125件**



就農・生産拡大に伴う 設備投資の支援

農業のメインバンク機能の強化を図るために営農部と金融共済部が連携し、新規就農や生産規模の拡大といった設備投資などに役立つ農業融資の情報発信や提案、資金の支援を行っています。

事例

農業経営にかかわる金融負担減に資する支援など

- 総額3,873万円、件数459件(平成28年度～平成30年度)

農業融資**139件**／累計**4.3億円**



地元飲食店との連携による 地産地消の拡大

JA直売所を率先利用する管内の飲食店などを「地元農家を応援する店」としてJAが独自に認定。地元食材の需要拡大と定期購入による安定的な販売先の確保で地産地消の拡大につなげています。

事例

- 地元農家を応援する店
..... 加盟26店舗

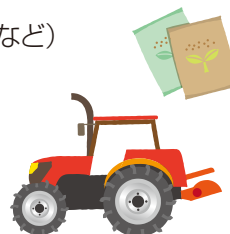
3年間で(平成28年度～平成30年度)

新たに**11店舗**が加盟



JAでは、そのほかにも総合事業によって地域農業を支えています

- 管内で生産される品目をPRするため、トマトや鉢花が当たる定期貯金キャンペーンを実施
- 産直出荷を目指す農家育成のため、行政と連携して栽培講習会を開催(しんしろ農業塾)
- 地域農産物を原料とした加工品の開発(純米大吟醸「しんしろ関」など)
- 自然災害時などにおける作業支援(台風や積雪によるハウス倒壊、豚コレラなど)
- 完全受注生産により、通常よりも割安な稲作用農薬(大容量)を提供
- JA独自の栽培暦を作成し、品目ごとに適した資材を提供
- 生産者の協力による実証試験結果をふまえ、省力・低コスト資材を選定
- 共同一括仕入れにより価格低減を実現した低価格トラクターなどを供給



「地域の活性化」の取り組み



移動購買車・移動金融店舗車 によるくらしの支援

生鮮品などを積み込んだ移動購買車「J笑門」が週5日50か所を巡回。貯金の入出金などが可能な移動金融店舗車「あいライナー」は週5日9か所で運行し、車に乗れない住民らの生活を支援しています。



介護従事者の人材育成

介護や福祉の仕事に就くうえで必要な知識と技術を身につける年13回の介護初任者研修(旧ホームヘルパー2級)を開き、高齢化社会を支える人材の育成に取り組んでいます。

事例

受講者数

17人

(平成28年度～平成30年度)



次世代への食農教育活動

小学校別に行う「バケツ稲」「大豆教室」などの出前授業、管内児童を対象とした通年型農業体験「こども農学校」「アグリスクール東栄」を行い、育てることの楽しさ、食べることの大切さを子どもたちに伝えています。

事例

こども農学校・アグリスクール東栄

述べ参加者245人(平成28年度～平成30年度)



JAでは、「食と農」「健康」「くらし」など、さまざまな地域貢献活動に取り組んでいます

- 給油所や介護施設など総合事業を通じた生活インフラ機能の発揮
- 環境美化活動(ゴミ拾い、花壇整備、里山への広葉樹の植樹ほか)
- 管内全小学校への児童向け農業雑誌「ちゃぐりん」、「愛知の農業」などの寄贈
- 地域住民の心身の健康につなげるため野球など各種スポーツ大会の開催
- DVDや模擬信号機の貸出など保育園、小学校向け交通安全教室の開催支援
- 災害時に役立つ備品の各自治体への寄贈や物資の備蓄
- 消防団など地域活動への積極参加(消防団協力事業所に認定)
- 支店を核とした組織基盤づくり活動(絵手紙教室、健康講話、夜店の開催ほか)
- 高齢者の生きがいづくり(ミニデイサービス、院内ボランティア、家事援助ほか)
- 奥三河地域の魅力にふれる学習会(JA文化講座、奥三河きわめびと伝承講座)
- 組合員の健康づくり(JAアグリラリー、JA事業所での集団人間ドック開催ほか)
- 生協や商工会など地域団体との交流と協働
- 有事の際のライフライン確保のための緊急用発電機の設置(本・支店、給油所)
- 婚活イベントの開催やお見合い設定などの無料結婚相談



組合員は「地域振興・農業振興の主人公」 また「食と農業の応援団」です

JAは総合事業の強みを活かし、農業者を中心とした多くの地域住民の暮らしを支えています。しかし、地域の農業を豊かにするためには、生産農家だけではなく、消費者や地域のみなさんの理解も必要です。旬の食材は栄養価が高く、体調を自然と整える働きもありますので、みなさんも地元の農畜産物を購入し、食べることで生産農家を応援しましょう!

作って応援!

- 直売所への出荷
- 援農ボランティア
- 家庭菜園



食べて応援!

- 直売所で地元産農畜産物を購入
- JAまつりや直売所イベントへの
- 農業体験イベントへの参加



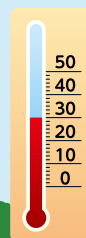
農業ってたくさんの恵がいっぱい!

新鮮な野菜が
食べられる

洪水や
土砂崩れの
発生を
抑えてくれる

真夏の暑さを
和らげる
ことも

さまざまな
生き物がくらし
やすい環境が
できる



 **愛知東農業協同組合**

〒441-1361 愛知県新城市平井字中田6番の1
TEL (0536) 22-1225(代表) / FAX (0536) 23-2929
<http://www.ja-aichihigashi.com>

